

2022年12月1日

ウェザーニューズ、都道府県ごとの花粉飛散時期とピークを発表
スギ花粉は2月上旬に九州・関東などで飛散開始、関東以西で飛散量増
飛散ピークはスギ花粉が2月下旬～3月下旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区 代表取締役社長:草開千仁)は2023年の花粉シーズンに向け、「第二回花粉飛散傾向」(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)を発表しました。

2月上旬に九州や近畿・東海の一部、関東でスギ花粉の飛散が始まり、2月中旬には中国・四国や近畿・東海の広範囲と、東北南部の一部でも飛散が始まる予想です。2月下旬になると北陸や東北南部、3月上旬には東北北部でも飛散が始まるとみています。飛散ピークは西日本・東日本の広範囲でスギ花粉が2月下旬～3月下旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬の予想です。

飛散量は北日本や北陸で2022年より少なくなるものの、関東や東海、西日本では多くなる予想です。2022年よりも飛散量が多くなるエリアでは、花粉症の症状が重くなるおそれがありますので、対策をしっかりと行ってください。

✓ポイント

1. 2月上旬から九州や近畿・東海の一部、関東でスギ花粉の飛散開始
2. 飛散ピークはスギ花粉が2月下旬～3月下旬、ヒノキ花粉が3月下旬～4月中旬
3. 飛散量は関東以西で前年よりも増加、北日本と北陸では減少

本プレスリリースの素材のダウンロード	「第二回花粉飛散傾向」の一般向けサイト
ウェブ版プレスリリース「第二回花粉飛散傾向」 https://jp.weathernews.com/news/41990/	ウェザーニューズウェブサイト「第二回花粉飛散傾向」 https://weathernews.jp/s/topics/202211/300125/

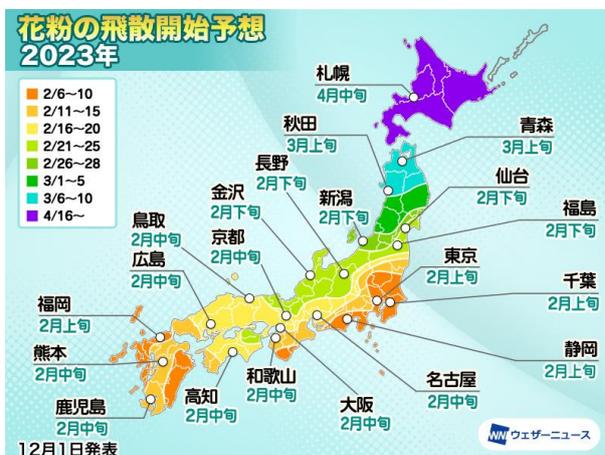
◆ 2023年「第二回花粉飛散傾向」

＜飛散開始時期:2月上旬から九州や近畿・東海の一部、関東でスギ花粉の飛散開始＞

スギの雄花は冬の寒さを経験することで休眠から目覚め(休眠打破)、寒さがピークを過ぎて暖かくなると花粉を飛ばし始めます。このため、冬の適度な寒さと春の気温の上昇が飛散開始のタイミングを左右します。

花粉の飛散開始時期に影響する2022年12月～2023年2月の気温は、北日本ではほぼ平年並、東日本と西日本は平年並か低い傾向となります。1月は上空の強い寒気の影響で西・東日本を中心に低温となる予想ですが、2月はほぼ全国的に概ね平年並

の気温となる予想です。このため、2023年の花粉の飛散開始時期は、過去10年の平均と比べると九州から東北では概ね同程度、北海道ではやや早くなると予想しています。

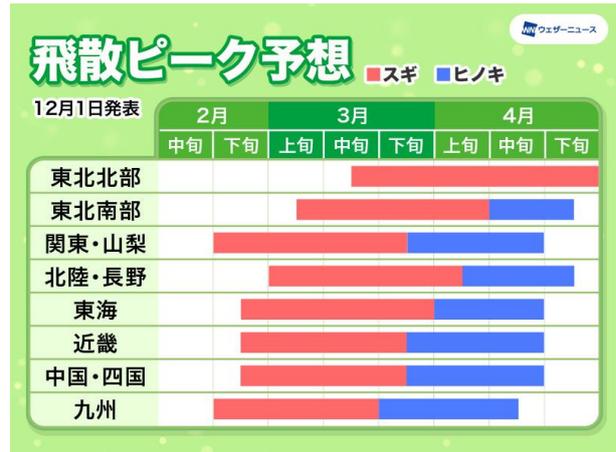


2月上旬に九州や近畿・東海の一部、関東でスギ花粉の飛散が始まり、2月中旬には中国・四国や近畿・東海の広範囲と、東北南部の一部でも飛散が始まる見込みです。2月下旬になると北陸や東北南部、3月上旬には東北北部でも飛散が始まるとみています。なお、詳細な飛散開始時期は1月下旬以降の気象動向に大きく左右されるため、最新の情報をご確認ください。

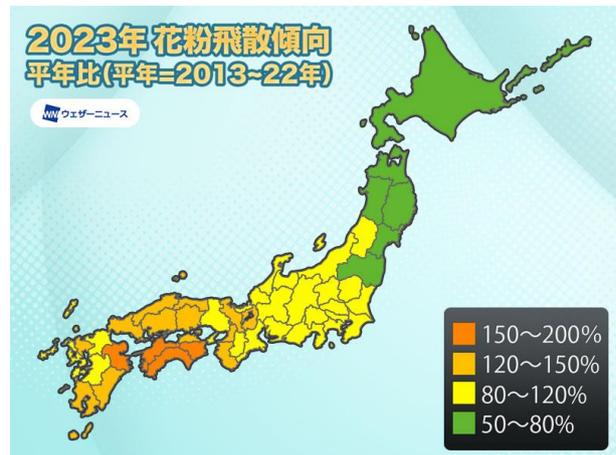
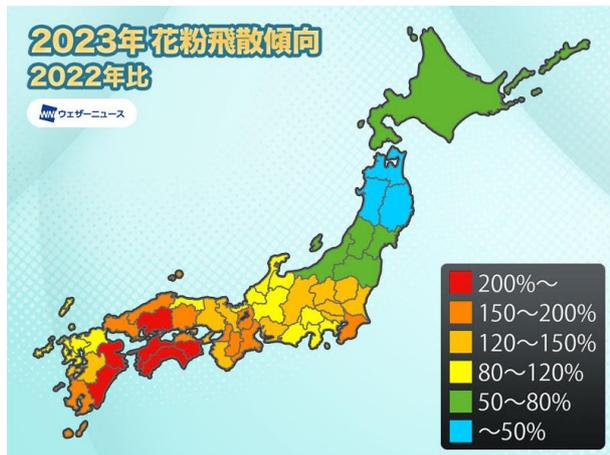
<飛散ピーク時期:スギ花粉は2月下旬～3月下旬、ヒノキ花粉は3月下旬～4月中旬>

九州では2月下旬～3月中旬、中国・四国から関東は2月下旬～3月下旬にスギ花粉の飛散ピークを迎える予想です。北陸・長野や東北南部のスギ花粉の飛散ピークは3月上旬～4月上旬、東北北部では3月中旬～4月下旬になるとみています。3月後半に入るとスギ花粉の飛散は徐々に収まり、代わって西日本からヒノキ花粉の飛散が増えていきます。

ヒノキ花粉の飛散ピークは九州から関東で3月下旬～4月中旬、東海で4月上旬～中旬、北陸・長野は4月上旬～下旬、東北南部は4月中旬～下旬とみています。ただ、北陸や東北南部ではヒノキの樹木が少ないため、スギ花粉に比べると飛散量が少なくなる見込みです。



<飛散量:関東以西では前年よりも増加、北日本は減少>



2023年春の花粉飛散量は北日本や北陸で2022年より少なくなるものの、関東や東海、西日本では多くなる予想です。西日本では2022年の1.7倍程度で、3倍以上の飛散量になる地域もあります。一方、2022年に飛散量が多かった北日本では飛散量が減少し、2022年の半分以下になる地域もあるとみています。

平年比(2013～2022年の飛散量平均との比較)でも西日本はやや多く、北日本はやや少ない予想です。東日本は概ね平年並で、全国平均では113%となる予想です。

<雄花調査の結果>

ウェザーニュースでは 2022 年の夏の天候や年毎の飛散量傾向、雄花調査の結果などを総合的に考慮して 2023 年の花粉飛散量を予想しています。本発表では 11 月 12 日～21 日にウェザーニュースアプリのユーザーから寄せられたスギの“雄花リポート”を活用しています。雄花リポートを集計した結果、雄花の数が「昨年と同程度」「昨年より多い」という回答がより多く寄せられ、「昨年より少ない」という回答は比較的少なくなりました。

本発表ではこれらの雄花調査の回答を考慮し、2023 年の予想飛散量を前回発表(10/4 発表)から一部更新しています。

◆ エリア別の 2023 年花粉飛散傾向

九州:2 月上旬から飛び始め 飛散量は 2022 年比で大幅増

この冬の気温傾向は平年よりやや低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい 2 月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去 10 年と比べると同程度で、長崎県など早い地域で 2 月上旬、2 月中旬には広範囲で飛散が始まると予想しています。その後 2 月下旬～3 月中旬にスギ花粉、3 月下旬～4 月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の 132%、2022 年シーズンの 160%になる予想です。全体的に飛散量は 2022 年よりも増える傾向ですが、特に宮崎県など太平洋側では大幅に増える予想ですので、しっかりと対策を行ってください。

花粉の飛散量

九州

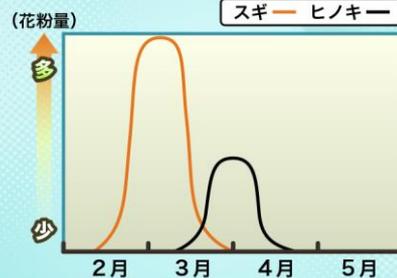
ウェザーニュース



花粉の飛散ピーク予想

九州

スギ — ヒノキ



12月1日発表

ウェザーニュース

中国・四国：飛散開始は2月中旬 飛散量は2022年比で大幅増

この冬の気温傾向は平年並か平年より低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温は平年並か平年よりやや低くなる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度かやや遅くなる予想で、広範囲で2月中旬、四国の一部では2月下旬と予想しています。その後2月下旬～3月下旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の151%、2022年シーズンの186%になる予想です。2022年の2倍以上の飛散量になるエリアもあるので、しっかりと対策を行うようにしてください。



近畿：2月上旬から飛び始め 飛散量は2022年比で大幅増

この冬の気温傾向は平年並かやや低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、和歌山県南部など早いエリアでは2月上旬、大阪など多くのエリアでは2月中旬と予想しています。その後2月下旬～3月下旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

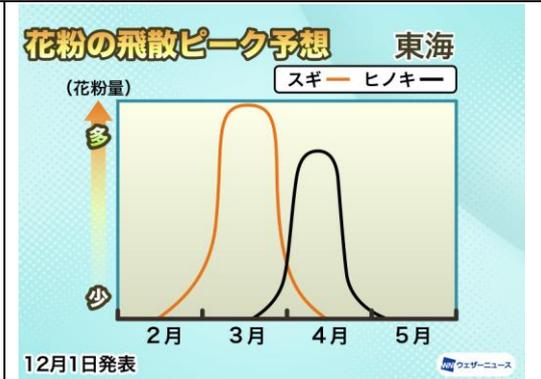
花粉飛散量は平年の122%、2022年シーズンの157%になる予想です。2022年に比べて飛散量が多くなる予想ですので、しっかりと対策を行ってください。



東海: 2月上旬から飛び始め 飛散量は広範囲で2022年並の予想

この冬の気温傾向は平年並かやや低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、静岡県など早いエリアでは2月上旬、愛知県などでは2月中旬と予想しています。その後2月下旬～3月下旬にスギ花粉、4月上旬～中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

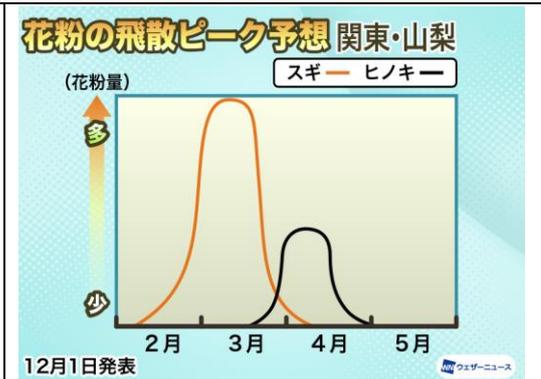
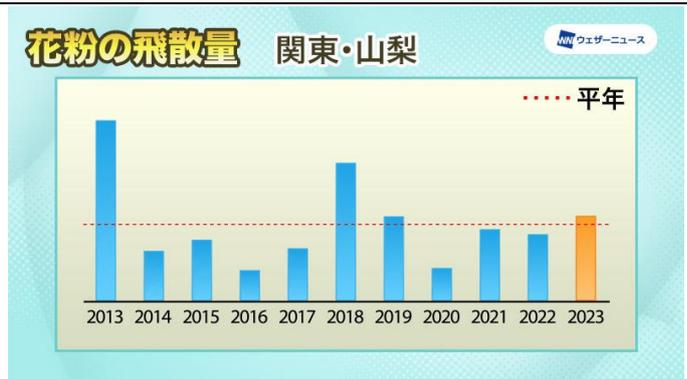
花粉飛散量は平年の104%、2022年シーズンの115%になる予想です。2022年に飛散量が少なかった三重県では2022年より多くの花粉が飛散すると予想しています。その他の地域は概ね2022年並の飛散量となる予想です。晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散するので、しっかりと対策をするようにしてください。



関東・山梨: 飛散開始は2月上旬 飛散量は2022年を上回る予想

この冬の気温傾向は概ね平年並になる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温もほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、2月上旬と予想しています。2月下旬～3月下旬にスギ花粉、3月下旬～4月中旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

花粉飛散量は平年の111%、2022年シーズンの128%になる予想です。総飛散量は2022年よりやや多くなる予想ですので、しっかりと対策を行ってください。



北陸・長野:飛散開始は2月下旬 飛散量は2022年を下回る予想

この冬の気温傾向は平年並かやや低くなる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に関起り、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温はほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、2月下旬と予想しています。3月上旬～4月上旬にスギ花粉、4月上旬～下旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

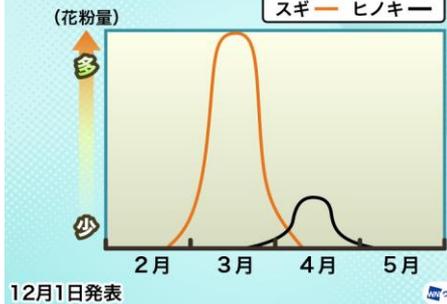
花粉飛散量は平年の104%、2022年シーズンの88%になる予想です。長野県では飛散量が平年、2022年に比べて多くなると予想しています。雄花調査で報告された雄花の生育状況を勘案し、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。全体的な総飛散量は2022年からやや少なくなる予想ですが、晴れて風の強い日には大量の花粉が飛散することがあるので、しっかりと対策を行ってください。

なお、北陸で春に飛散する花粉はスギがメインで、ヒノキ花粉は比較的少ない傾向にあります。

花粉の飛散量 北陸・長野



花粉の飛散ピーク予想 北陸・長野



東北南部:2月中旬から飛び始め 飛散量は2022年比で減少

この冬の気温傾向は平年並になる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に関起り、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散時期に影響が大きい2月の気温もほぼ平年並となる予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、早ければ2月中旬にも太平洋側から花粉シーズンに入ると予想しています。3月上旬～4月上旬にスギ花粉、4月中旬～下旬にヒノキ花粉の飛散ピークを迎える見込みです。

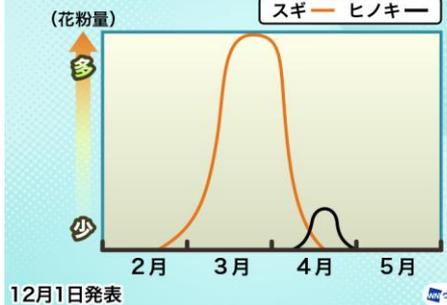
花粉飛散量は平年の79%、2022年シーズンの58%になる予想です。雄花調査で報告された雄花の生育状況を勘案し、前回発表よりも予想飛散量が多くなっているエリアがあります。総飛散量は2022年よりも少なくなる予想ですが、晴れて風の強い日には大量の花粉が飛散することがあるので、しっかりと対策を行ってください。

なお、東北南部で春に飛散する花粉はスギがメインで、ヒノキ花粉は比較的少ない傾向にあります。

花粉の飛散量 東北南部



花粉の飛散ピーク予想 東北南部



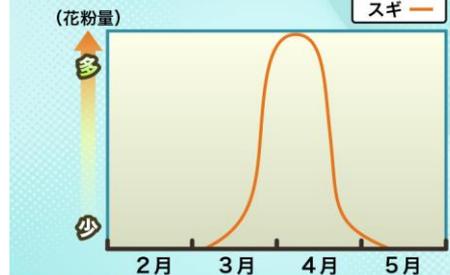
東北北部: 飛散開始は3月上旬 大量飛散の反動で飛散量は大幅減

この冬の気温傾向は概ね平年並になる見込みです。断続的に寒気が流れ込んで休眠打破が適度に起こり、寒さが緩むタイミングでスギ花粉が飛び始めます。飛散開始時期に影響が大きい2月から3月はじめの気温もほぼ平年並の予想です。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べると同程度で、3月上旬に花粉シーズンに入ると予想しています。飛散ピークは3月中旬～4月下旬で、その後飛散量が段々と少なくなる見込みです。スギ花粉の飛散量は平年の72%、2022年シーズンの29%になる予想です。記録的な大量飛散となった2022年に比べると総飛散量は大幅に減少するものの、晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することがあります。油断せずに対策をするようにしてください。なお、東北北部で春に多く飛散する花粉はスギ花粉で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。

花粉の飛散量 東北北部



花粉の飛散ピーク予想 東北北部



12月1日発表

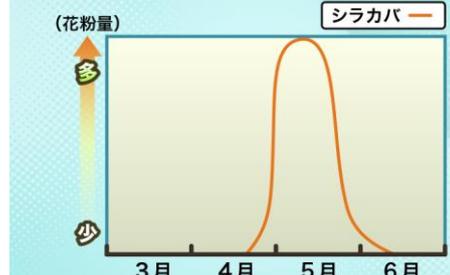
北海道: 飛散開始は4月中旬 2022年比で飛散量は減

この冬から春の気温傾向は平年並か高くなる見込みで、4月以降、寒さが緩むタイミングでシラカバ花粉が飛び始めます。花粉の飛散開始時期は過去10年と比べるとやや早くなる予想で、道南や道央など早い所では4月中旬、その他のエリアでも4月下旬から5月にかけてシラカバ花粉のシーズンに入るとみています。飛散ピークは道南や道央エリアでゴールデンウィーク前後、道北や道東では5月中旬頃で、5月下旬になると段々と飛散量は少なくなる見込みです。シラカバ花粉の飛散量は平年の70%、2022年シーズンの77%となる予想です。総飛散量が減少しても晴れて風の強い日には花粉が大量に飛散することがあるので、油断せずに対策をするようにしてください。

花粉の飛散量 北海道



花粉の飛散ピーク予想 北海道



12月1日発表

◆ 都道府県別の2023年花粉飛散傾向

エリア	都道府県	花粉飛散量 (2022年比:%)	花粉飛散量 (平年比:%)	花粉シーズン イン予想	花粉シーズン アウト予想
北海道	北海道	77	70	4月中旬	6月中旬
東北北部	青森県	28	71	3月上旬	5月上旬
	岩手県	33	71	3月上旬	5月上旬
	秋田県	29	74	3月上旬	5月上旬
東北南部	宮城県	58	76	2月下旬	5月上旬
	山形県	51	84	3月上旬	5月上旬
	福島県	65	77	2月下旬	5月上旬
関東・山梨	茨城県	121	113	2月上旬	5月上旬
	栃木県	139	117	2月上旬	5月上旬
	群馬県	141	113	2月上旬	5月上旬
	埼玉県	127	114	2月上旬	5月上旬
	千葉県	155	113	2月上旬	5月上旬
	東京都	129	118	2月上旬	5月上旬
	神奈川県	103	110	2月上旬	5月上旬
	山梨県	119	89	2月中旬	5月上旬
北陸・長野	長野県	123	114	2月下旬	5月中旬
	新潟県	69	96	2月下旬	5月上旬
	富山県	80	90	2月下旬	5月上旬
	石川県	84	111	2月下旬	5月上旬
	福井県	82	106	2月下旬	5月上旬
東海	静岡県	96	102	2月上旬	5月上旬
	愛知県	125	110	2月中旬	5月上旬
	岐阜県	110	109	2月中旬	5月上旬
	三重県	154	98	2月中旬	5月上旬
近畿	滋賀県	185	139	2月下旬	5月上旬
	京都府	130	121	2月中旬	5月上旬
	大阪府	195	127	2月中旬	5月上旬
	兵庫県	130	115	2月中旬	5月上旬
	奈良県	175	105	2月中旬	5月上旬
	和歌山県	149	124	2月中旬	5月上旬
中国・四国	岡山県	164	131	2月中旬	5月上旬
	広島県	223	142	2月中旬	5月上旬
	鳥取県	96	125	2月中旬	5月上旬
	島根県	169	149	2月中旬	5月上旬
	山口県	162	146	2月中旬	4月下旬
	徳島県	277	157	2月下旬	5月上旬
	香川県	165	144	2月下旬	5月上旬
	愛媛県	225	170	2月中旬	5月上旬
	高知県	280	191	2月中旬	5月上旬
九州	福岡県	101	116	2月上旬	4月下旬
	佐賀県	115	127	2月中旬	4月下旬
	長崎県	116	118	2月上旬	4月下旬
	大分県	273	159	2月上旬	4月下旬
	熊本県	136	119	2月中旬	4月下旬
	宮崎県	358	147	2月上旬	4月下旬
	鹿児島県	187	130	2月中旬	4月下旬
全国		110	113	-	-

- ※ 平年:天候の平年は1991～2020年の過去30年平均、花粉飛散量の平年は2013～2022年の過去10年平均
- ※ 飛散量:花粉観測機「ポールンロボ」が観測すると想定される花粉数。過去のポールンロボの観測データをもとに予想を算出

◆ 参考:ウェザーニュースの花粉飛散傾向と観測網について

ウェザーニュースでは、全国のウェザーニュースアプリのユーザーと花粉の雄花の生育状況を調査する「雄花調査」の結果、これまで「花粉プロジェクト」で蓄積してきた花粉の観測データ、年ごとの飛散量傾向、今夏の天候をもとに来シーズンの花粉飛散傾向を発表しています。

ウェザーニュースの「花粉プロジェクト」は、花粉症の方々の役に立ちたい!という想いで、2005年から実施しているユーザー参加型の取り組みです。全国のご家庭や企業などに、独自開発した花粉観測機「ポールンロボ」を約1,000台設置し、空気中に含まれる花粉をリアルタイムに自動観測します。

ウェザーニュースは、日本最大級の花粉観測網とこれまでの蓄積データを活かし、予報精度向上を目指すと共に、アプリの利便性を高め、花粉症の方が少しでも楽に過ごせるようサポートしていきます。



花粉観測機「ポールンロボ」設置イメージ